

検査結果通知システム

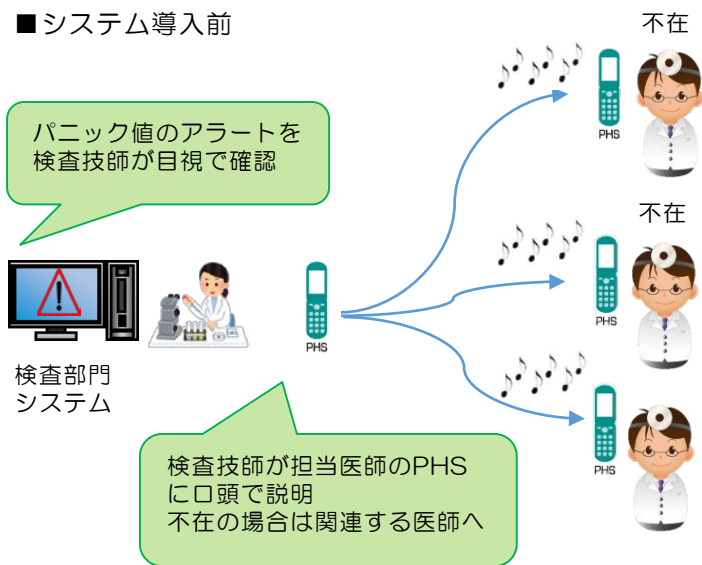
システム監修
群馬大学医学部附属病院
システム統合センター
准教授 鳥飼 幸太先生

～パニック値を判定し迅速且つ正確に担当医師のスマホへ～

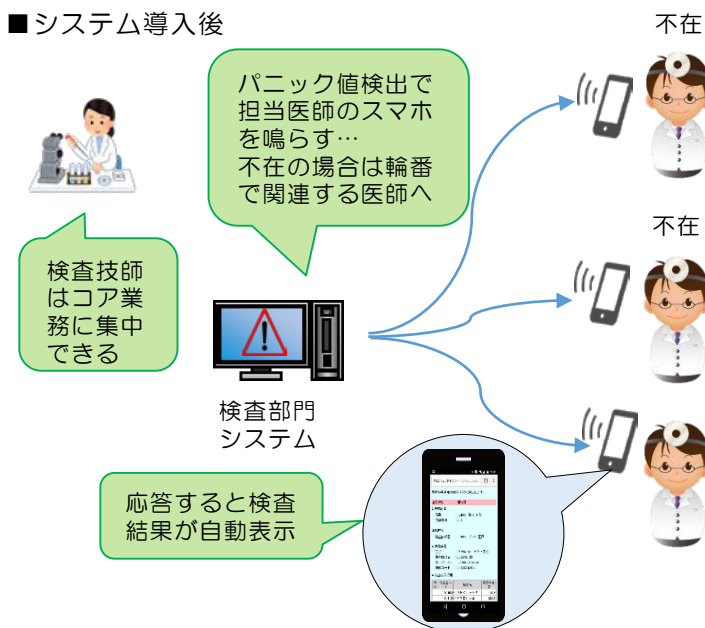
検査結果には各病院が定めるパニック値という概念があります。パニック値とは「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常値で、直ちに治療を開始すれば救命しうるが、その診断は臨床的な診断だけでは困難で、検査によるのみ可能である」とされています。

現状ではパニック値が検出された場合、担当医師への報告は電話による緊急連絡網や電子カルテにアラート表示をさせる方法等があります。しかし、電話の場合、不在対応や口頭による報告漏れの可能性があり、電子カルテにアラート表示させる場合でも、医師が電子カルテ端末に不在の際、検査結果を確認することはできません。また、検査結果の詳細確認については、対象患者の電子カルテを開かないと確認できません。本共同開発のシステムを導入することにより、パニック値の情報を迅速かつ正確に担当医師に伝達できることが期待されます。

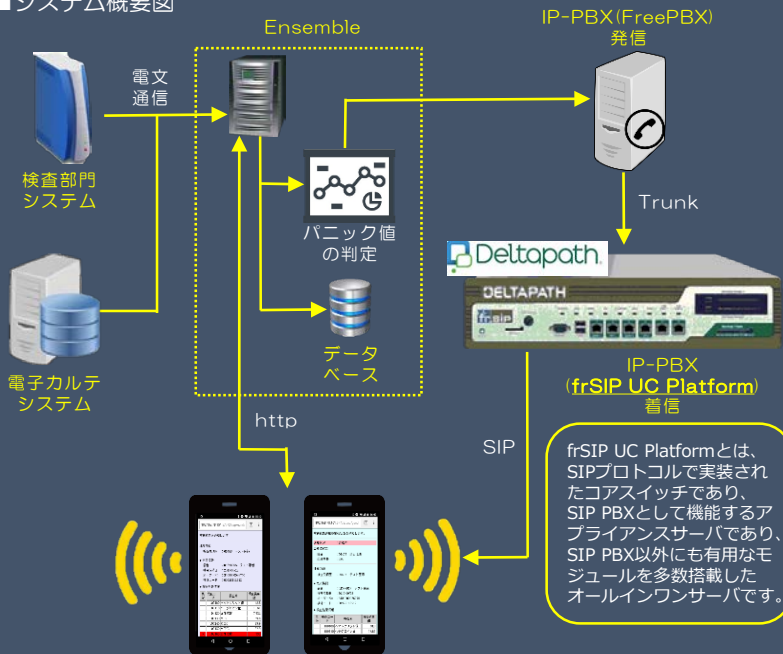
■システム導入前



■システム導入後



■システム概要図



POINT 1

迅速且つ正確に伝達！

パニック値を検知すると担当医師のスマートフォンに検査結果を自動表示します。一定時間応答がない場合、緊急連絡体制に則り、輪番で転送する仕組みを設けています。

POINT 2

万全のセキュリティ！

検査結果はスマートフォンにデータを保存することなく、画面上にパニック値データを表示させるだけなので、紛失・盗難にあった場合でも、データ流出の恐れがありません。